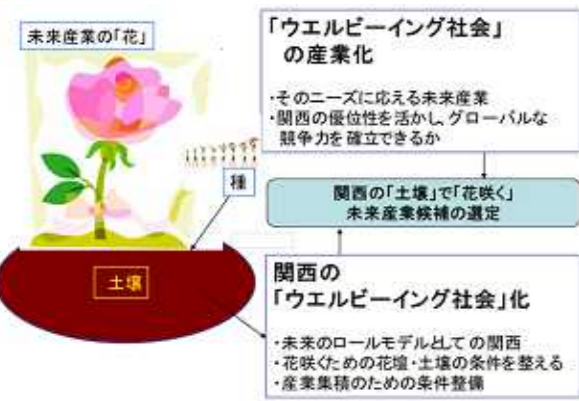


検討経緯

「未来産業」とは、今はまだその姿を現していない産業の抽象的な総称である。ここでの「未来」には、現在の延長からは予測しえない近くとも10年先から、遠くとも夢物語とはならない一世代・30年先まで幅を持たせることとした。本委員会では、関西の強みを再発掘して深化させ、それら強みの有機的な連携を基軸として未来を見据え、関西地域の産業が持続的に成長し、新産業が花開くための要件を「未来産業とその発展モデル」として研究することをテーマとして掲げ、2年間の活動を行った。

1年目の活動では、未来産業を考えるにあたり、「未来社会のシナリオ」を描くこととした。まずは、足下で起こっているパラダイムシフトを踏まえて方向性を定めることとし、(1)グローバル化の進行(先進国の地位低下と新興国の勃興)、(2)低炭素・循環型社会への移行・サステナブル(持続可能性)、(3)安心安全・長寿・少子高齢化社会への移行、(4)ICTの発達・情報大爆発、(5)都市化の進行、(6)エネルギー資源の確保、(7)食料需要の増大と食糧安全リスクの高まり、(8)世界規模で勃発する民主化の波、をパラダイムシフトとして捉えた。また、未来予測にあたっては、産業の核となる「テクノロジー」を一つの軸に、人口動態など「地政学の観点」をもう一つの軸とした。未来を描く手法としては、主として「シナリオ・プランニング」を用いることとした。

「描く」にあたっては「モビリティ」「コミュニケーション」「エネルギー」「コミュニティ」「ヒューマン」という5つのキーワードを基本とすることとした。社会インフラとして「モビリティ」「コミュニケーション」「エネルギー」という3つの分野があり、それらの安定した土台の上に人々が暮らす「コミュニティ」が存在し、その中で、人間すなわち「ヒューマン」が活き活きと暮らしているという姿が未来社会である、との構成とした。また、よりよい・豊かな生活を実現していく「ウエルビーイング」という概念こそが主眼であるとして、未来社会のシナリオを描いた。



2年目は、1年目に描いた未来社会シナリオを土台として検討を進めたが、関西で未来産業を育むためには、単に有望な産業領域を選ぶだけでなく、産業が花開くための土壌についてもあわせて整備すべきであり、そのためには、あるべき社会の姿を明確にして、関西がその姿をめざすことも必要であるとなった。

そこで、未来にあるべき姿を「ウエルビーイング社会」として要件を規定していったが、その過程で、「ウエルビーイング社会」に包含される要件が、産業を集積させる要件にも重なってくるようになった。そのため、関西を「ウエルビーイング社会」化していくことによる土壌の整備と、「ウエルビーイング社会」の社会ニーズを産業化していくことにより花を咲かせる「未来産業」の抽出、という両面から検討を進めた。

提言では、関西は「ウエルビーイング社会」を目指すべきであるとし、その要件を明示した。

次に、「ウエルビーイング社会」に向け、関西を「未来産業」を育む土壌としても整備していくために、我々自身ができることを取り纏めた。

そして、「ウエルビーイング社会」の社会ニーズに応えるものが「未来産業」である、という認識のもと、社会インフラとして基盤となるものから人のより高次の欲求を満たすものまで、5つの産業領域を、関西が力を入れるべき「未来産業」として選定した。

講演会の実施

- 2010年度 第1回講演 「関西におけるバッテリー・クラスターの集積」
日本政策投資銀行関西支店 企画調査課・坂田枝実子 氏
- 第2回講演 「未来産業と環境経済戦略」
京都大学大学院経済学研究科・植田和弘 教授
- 2011年度 第1回講演 「Life After 3.11と生活者の視点から見た未来産業」
博報堂生活総合研究所・嶋本達嗣 所長
- 第2回講演 「地域における産業集積の条件～関西で未来産業が花開く土壌を育むために」
日本政策投資銀行 産業調査部 チーフエコノミスト・鍋山徹 氏

提言

- 関西で未来産業を育むにあたり、
- (1) 「ウエルビーイング社会」の実現を関西は目指そう。
 - (2) 「未来にむけて土壌を整備する」ために我々が自ら取り組もう。
 - (3) 「未来に花開かせる産業」として5つの領域に力を入れよう。

提言1: 「ウエルビーイング社会」の実現を関西は目指そう

- ウエルビーイング社会とは・・・
- (1) 安心・安全が確保されている社会
 - (2) 低炭素・循環型社会
～情報は豊かに、モノとエネルギーはつつましく～
 - (3) 安定した社会インフラが確保されている社会
 - (4) 身体性への回帰
～ITにおぼれず、カラダとアタマを使う社会～
 - (5) エイジレスで、高齢者が元気に社会参加する社会
～年齢に関わらず、生きていて楽しい都市生活～
 - (6) 多様性が認められたダイバーシティ社会
 - (7) 住みやすい場所住環境・緑と水の整備
 - (8) 働きやすく、ワークスタイルの多様化が実現している社会
 - (9) 学びやすい社会・知的欲求を満たすことができる社会
 - (10) 行き過ぎた個人主義の修正/好縁社会/認め合い社会
 - (11) ベンチャー精神・新進の気性を養える社会
 - (12) 自己実現可能性を補助する社会

提言2: 「未来にむけて土壌を整備する」ために我々が自ら取り組もう

- (1) 「ウエルビーイング社会」を目指して行動を起こそう!
- (2) 東京と同じものを求めず逆をいこう!
- (3) おもしろいことをやっとう!
- (4) 異端児を育て新進の気性を取り戻そう!
- (5) 明るく元気で楽しいオープンネスの風土を育もう!

提言3: 「未来に花開かせる産業」として5つの領域に力を入れよう

- (1) エネルギーを中心とした「グリーン・イノベーション産業」
関西のバッテリークラスターなどに見られる集積を活かした取り組み
- (2) 医療(医療機器・医療)・介護・福祉を中心とした「グローバル・シルバー・イノベーション産業」
関西の先端医療・医薬・ロボット技術なども活かした取り組み
- (3) 物語性を活かした「インバウンド観光産業」・「グローバル交流支援産業」
関西の歴史・観光資産に物語性を付加し、アジアに的を絞った取り組み
- (4) こころをつなぎ認め合う「コミュニティ創成産業」・「絆産業」
関西の「茶の湯」の伝統などを未来の社会ニーズにつなげて産業化する取り組み
- (5) 生涯の学びと世代間継承を支える「教育産業」・「自己実現支援産業」
関西の大学集積などを未来の社会ニーズにつなげて産業化する取り組み